

日本の安全安心考えます!

セキュリティ研究

Review

118 September
2008

企業戦略

GE Security ASIA 社長に日本市場における戦略を聞く

CREATIVE MIND

三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社

しあわせ通信

異次元への誘いは、無限の愛情から

秋田県立能代工業高校 バスケットボール部 元総監督 **加藤廣志**

SECURITY INDUSTRY WATCH

ワテック株式会社/日本ハルコン株式会社/双日株式会社/松下電器産業株式会社/松下電工株式会社
アイホン株式会社/株式会社日立ビルシステム/株式会社メルク/富士フイルム株式会社

EVENT REPORT 第3回 オフィスセキュリティ EXPO(OSEC)



広がる音声情報セキュリティ対策サービス

～対策レベルのニーズに合わせて～

特定非営利活動法人
日本情報安全管理協会

氾濫する市販盗聴器

電気街などで一般に市販されている盗聴器は年間に約 37 万台も販売されていると言われています。市販器の多くが大量生産されており、使われている基盤も似たようなものが使われており、数パターンの無線周波数で作られており、技術的にはそれほど難しいものではありません。無線に関するある程度の知識がある人の場合、これらの盗聴器を改造して周波数を変えるなどして利用されます。

高度化する情報収集装置

欧米では高度な技術に裏づけられた情報収集装置による音声情報収集が数百万ドルビジネスとして成立していると聞きます。ターゲットとされた企業は音声情報が盗まれることにより、経営や事業体制に甚大な損害を被る可能性があるということが認識されています。これらのレベルになると、使用される情報収集装置は一般に市販されている盗聴器とは違い、カスタムメイドで作られたものがほとんどになります。これらの情報収集装置は、市販盗聴器とは違い定義がありません。会話の音声を抜き取ることが可能であれば、どんな機械でも情報収集装置となりえます。

ソリューションのレベル別分類 (ガイドラインによる)

上述のように、情報収集装置(盗聴器)にも様々なレベルにおいて存在し、それに対して最適な対策を講じる必要があります。

現在、弊協会では 2008 年 5 月に発表された「音声情報セキュリティ対策ガイドライン」に従い、3 段階のソリューションを提供しております。対策レベル別にサービスを分類すると以下のようになります。

レベル 1 (電気街で販売されている盗聴器・盗撮器等への対策)

1. ロボットによる遠隔検診

空間内の無線電波を点検することによって、安心空間の認証を受けることができます。

誰にでも取扱いの可能な MIRCA2.0 (FOR-S 株式会社 提供「Green Space 認定サービス」) という端末を用い、点検範囲の無線電波を点検します。オンラインによる点検であり、専門技術者を探査

範囲に入れることなく点検が可能となります。

2. 携帯型検知器の使用 (弊協会開発中)

盗聴器や盗撮機器の電波が検地された場合、設置場所の特定が必要となります。弊協会では、現在、誰にでも電波の発信場所が検知できるよう、携帯型の検知器を開発中です。これまで一般に市販されている検知器には操作の難しいものや、性能の粗悪なものが多くあり、一般の消費者が扱いづらいという問題点がありましたが、現在開発中の検知器に関してはそれらの諸問題がクリアされています。

また、これらの検知器は、ユーザーが日常的に室内を点検するのに十分な性能を搭載しているので、日常的に対策を実施したい方には推奨しております。

3. ロボットによる常時監視

また、一般市販器対策には、日常監視が有効です。前述した MIRCA2.0 (FOR-S 株式会社 提供) というロボットを常時設置しておくことによって、室内の電波環境の変化に対応します。

レベル 2 (専門技術者による現場における探査)

1. 情報安全管理 (専門技術者) による探査

一般市販器以外の音声情報セキュリティが必要な場合には、専門技術者による空間の点検が必要になります。

技術者が探査エリアに出向いて、点検を実施するこれらの手法は、従来、多くの盗聴対策業者が採用していた手法であり、音声情報漏洩対策を講じる一方で、技術者の技量によるサービスのバラつきがみられ、料金にもバラつきがあったため、消費者と業者間でさまざまな問題を引き起こしてきた経緯もありましたが、現在では、弊協会が情報安全管理士資格認定制度として、専門技術者が資格を取得することによって、技術・サービスの一元化、レベルの標準化を図り、前述のような諸問題は解決の方向へ向かっております。

情報安全管理士による音声情報対策サービスは、すでにヤマトホームコンビニエンス株式会社、NEC ファシリティーズ株式会社、ALSOK 東心綜合警備保障株式会社、日本通運株式会社、TL トランスポート株式会社など多くの企業で、サービ

スとして採用されています。

レベル3 (国内最高峰の技術による探査)

1. 情報安全管理士による専用対策機器を用いた詳細点検

より重要な音声情報が取り交わされるようなエリアでは、レベル2よりもレベルの高い対策が必要となります。日本国製では、レベルⅢに対応できる対策専用機器は存在せず、英国製の機材を用います。スキャンロック M2 (情報収集装置専用発見機)、ブルーム (埋蔵型情報収集装置発見機器) 等を用いることによって、無線による情報収集装置だけでなく、電力線上に仕掛けられた情報収集装置や、壁の中に設置された半導体や金属接点 (情報収集装置の部品) などを検知することが可能となります。

このレベルでの詳細点検では、情報収集装置の有無のみではなく、設置痕や物理セキュリティ、ヒューマンセキュリティの管理等も重要となり、

通常、顧客にはレポートを作成し、コンサルティングとしてのサービス提供となります。

現在このような世界レベルで対策を講じることができる民間の技術者は国内でわずかしかいません。弊協会の情報安全管理士資格制度では、通信傍受対策総合監理士として位置づけられています。

対策の運用

前述のように情報収集装置のレベルによってさまざまな対策があります。ユーザーは目的や、目標のセキュリティレベルに応じて最適な対策を講じる必要があります。また、それぞれ別のレベルの対策であっても、組み合わせることによって強固な音声情報セキュリティ効果が発生します。今後、重要なのはどのように対策を運用していくのかということになります。弊協会では、このような対策を効果的に講じることができるようコンサルティングを行っています。

お知らせ

弊協会では、2008年5月に発表した「企業音声情報のセキュリティ対策に関するガイドライン」についてのセミナーを下記のように実施しています。NTTグループ、ALSOKはじめ、さまざまな業種・業態からの問い合わせが多数あり、随時セミナーを実施しております。特にIT関連企業の情報セキュリティ担当者の受講が多くあり、各社の音声情報セキュリティを高めるべく、また、通信傍受対策を体系的に学ぶことにより、社員および関係者が日常取るべき対策とその意味、及び取らなかったことによる問題・影響についてなど、企業関係者であれば、最低限有しているべきとされる音声情報の基礎的なセキュリティについての講習会となります。今最も注目されている分野でもあります。

下記の如く、講座を開講いたしますので、皆様の受講をお待ち申し上げます。

- 講座名：企業音声情報セキュリティ講習会
- 受講資格：企業に所属していればどなたでも受講できます。
- 受講料：8,000円/1名 (10名より)
- 修了証：講習終了後、弊協会発行の修了証を付与致します。
※確認テストが著しく悪くない限り、修了証を付与します。
- 講習日程：お申込各社ごとに日程調整の上、実施いたします。
- 講習時間：講習会 13:00~15:00 確認テスト 15:30~16:00
- カリキュラム：別紙カリキュラムに基づき実施致します。
- テキスト：「企業音声情報のセキュリティ対策に関するガイドライン」
- お申込：お申込の会社様ごとにお申込を受付いたします。
※詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

修了証イメージ



お問い合わせ先

特定非営利活動法人 日本情報安全管理協会 事務局

〒108-0073 東京都港区三田 2-14-5 7F

TEL : 03-5765-7677 FAX : 03-5765-3181

URL : <http://www.jilcom.or.jp> E-MAIL : jilcom@aioros.ocn.ne.jp